

令和3年度 あおりの中学生・高校生による

大切なあなたへ 薦める 青春の一冊



優秀作品集

紹介文集



目次

中学生の部

最優秀賞

- 『人生に、上下も勝ち負けありません 精神科医が教える老子の言葉』
(野村 総一郎/著) 青森市立筒井中学校 2年 平岡 音羽 1

優秀賞

- 『レインツリーの国』(有川 浩/著) 青森市立南中学校 3年 福士 舞 2
『ライオンのおやつ』(小川 糸/著) 青森市立南中学校 3年 田村 望桜 2
『+1cm(プラスイッセンチ)たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える』
(キム・ウンジュ/著 ヤン・ヒョンジョン/イラスト 築田 順子/訳)
むつ市立田名部中学校 3年 中美 姫咲 3
『きみの友だち』(重松 清/著) むつ市立田名部中学校 3年 宮本 藍瑠 3
『青の数学』(王城 夕紀/著) 八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 関野 天音 4

- 奨励賞・審査員賞一覧 4

高校生の部

最優秀賞

- 『星やどりの声』(朝井 リョウ/著)
青森県立青森工業高等学校 1年 猪股 玲奈 5

優秀賞

- 『夏の庭 The Friends』(湯本 香樹実/著)
青森県立青森東高等学校 2年 山田 愛菜 6
『レインツリーの国』(有川 浩/著)
青森県立青森聾学校 高等部 3年 三上 真輝 6
『海の見える理髪店』(荻原 浩/著)
青森県立五所川原工科高等学校 1年 平沢 さなえ 7
『か「」く「」し「」ご「」と「」』(住野 よる/著)
青森県立八戸商業高等学校 1年 高畑 友希 7
『今こそ栄光への架け橋を それでもオリンピックは素晴らしい!』
(刈屋 富士雄/著) 向陵高等学校 3年 栗橋 美妃 8

- 奨励賞・審査員賞一覧 9

『人生に、上下も勝ち負けありません 精神科医が教える老子の言葉』 (野村 総一郎／著)

青森市立筒井中学校 2年 平間 音羽

「ここは、上下も勝ち負けもない世界」。私は目を疑った。試合にも成績にも、どう考えてもあるではないか。

私は、他人と自分を比べがちだ。しかし、自分で勝手に優劣を決めて苦しくなっていないかとこの本は問うた。はっとした。確かに人と比べては私はだめだと落ち込んでいた。

この本では周りとは比べないことの大切さを何度も伝えている。なかなか実践できないのも事実だがもし、比べないことができれば、自分を認められ、優劣だけではない、多様な基準が存在する世界になるのではないかと私は思う。この本では、温かい希望を含む言葉が登場し、優しく心に寄り添ってくれる。あなたの味方となるこの本を、今あなたに薦めたい。



文響社

審査評

時代が大きく変化し、競争激化の中、人としての本来の在り方を見失いがちになっている私たちにとって、優劣を越えた世界があることは、救いである。なぜなら、そこに希望を見出すことができるからである。優しく心に寄り添う、温かな言葉に目を通すことで、味方がいると感じられるこの一冊を薦めてくれる優れた感性は、賞賛に値する。



優秀賞

中学生の部

『レインツリーの国』(有川 浩/著)

青森市立南中学校 3年 福土 舞

この本は、主人公の伸行と聴覚障害を持つひとみによる、「健聴者」と「聴覚障害者」のぶつかり合いを書いた物語である。

伸行の言葉に、「仲直りするためにケンカしようや。」という言葉がある。私は、人と対立することが嫌いだ。対立して良いことは一つもないから。そう考えて、人と対立しないように、うまく距離をとって友達と話していた。そんな私に、伸行のこの言葉は、ケンカしていいんだ、対立していいんだ、ぶつかり合って仲を深めるんだ、という新しい考え方をくれた。

友達との距離で悩んでいる人、対立が怖い人、そしてコンプレックスを抱えている人にも読んでほしい一冊である。



KADOKAWA/角川文庫

審査員

表面的な仲の良さを装うだけでは、人は本当に理解し合えるようにはならない。腹の底から本音を出し合い、互いに刺激し合うことで、仲が深まり、人としての確かな成長がある。だから、対立を恐れてはいけない。そういう意味で、心に引け目を感じてる人こそ、この本に気付いてほしいと願う。それを簡潔に紹介してくれたことに深い感謝を示したい。

『ライオンのおやつ』(小川 糸/著)

青森市立南中学校 3年 田村 望桜

この本は、病気で余命を告げられた雫が、「ライオンの家」というホスピスで残りの日々を過ごしていく物語です。

私は、学校生活で悩みを持っている時にこの本を読み、涙が出ました。言葉の一つ一つがやさしく心にしみるのです。

雫は、ライオンの家で同じ運命に向かう人たちと関わりながら、少しずつ日常の中の小さな幸せを見つけ、生きていきます。私はその姿に胸を打たれました。明日が来るとわかるだけで幸せののだと感じ、心のモヤモヤが静かに消えるようでした。

私はこの本にぜひ出会ってほしいと思います。きっと、今まで当たり前だったことが幸せに感じるができるはずだからです。



ポプラ社

審査員

限りある命。それは健康な人、病を抱えている人も同じである。ただ、長いのか短いのかの違いだけかもしれない。いつかは果てる命をしっかりと見つめているから、幸せが理解でき、同じ運命を共にする人とそれを分かち合うから、悩みが消えてしまうのかもしれない。そんなことを感じさせるこの本を紹介してくれること自体が、命に感謝している証なのだと思う。

『+ 1 cm (プラスイッセンチ)』

たった1 cmの差があなたの世界をがらりと変える』
(キム・ウンジュ／著 ヤン・ヒョンジョン／イラスト 築田 順子／訳)

むつ市立田名部中学校 3年 中美 姫咲

私は受検生ですが、まだ受検する高校を決められずにいました。その理由は、周りからどう思われるかを気にし過ぎだからです。家族の考え、友達の進路、世間の評判。そして新しい環境に飛び込むことの恐怖。

そんな私に、「自分の人生の主役は自分自身」だと教えてくれたのが、この本です。自分が本当にしたいことは何だろう。自分はどんな人生を歩みたいだろうと、自分の生き方を考えるきっかけをくれました。

進路だけでなく、何かの選択に悩んでいる人がいたら読んでほしい本です。ものの見方を1 cm変えるだけで、世界は180度違うものに生まれ変わります。可愛いイラストと優しい言葉で、心を軽くしてみませんか。



文響社

▼
審査評

進路選択は、選び方によって、別な世界が待ち受けている人生の岐路である。だから、慎重になるし、迷いもする。でも、人生の主役が自分であることに納得したなら、進むべき道を自分自身で選ぶことで、主体的に生きることができるようになるはずである。重たいテーマを平易な言葉で説き明かすこの本に気付き、紹介してくれたことで、心が救われる人がいるはずである。

『きみの友だち』(重松 清／著)

むつ市立田名部中学校 3年 宮本 藍瑠

「私はみんなを信じない。」ある事件をきっかけに、クラスで孤立した、足の不自由な恵美ちゃんと、病気がちな由香ちゃん。どんな時でも二人きり。でも、さみしくない。

あ、私のことだ、と思いました。

私は、「みんな」で何かをするのが苦手です。自分で壁を作ってしまいます。そんな自分が嫌でした。でも、恵美ちゃんの「さびしくないよ」という言葉を聞き、はっとしました。無理をしてまで「みんな」の輪に入らなくてもいい。あなたはあなたのまま、あなたのいたい場所においていいと言われていたみたいでした。この本を薦めてくれたのは、私のとても大切な友達です。だから私も、この本をあなたに薦めます。



新潮文庫刊

▼
審査評

周囲に合わせる自分自身を演じて、腑に落ちない気分になることがある。打ち解けているようで、実は心にわだかまりが生じているからである。そこに本当の信頼は生まれない。でも、自分のままでいることが許されたなら、人は心と心でつながることができるのかもしれない。そんな心に迫る内容の一冊に出会い、薦めてくれる思いやりに感謝せずにはいられない。



『青の数学』（王城 夕紀／著）

八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 関野 天音

「大雪の中、彼女の上にだけ数字が降っていた。」この本はそんな文から始まる少年少女の青春小説である。私は小さい頃からピアノを続けている。なぜやり続けるのか。好きだとハッキリ言える程好きなのか分からないし、秀でたいわけでもない。そんな、なんとなくやるせない気持ちでいた。「理由がなければいけないのか、理由がなければ駄目なのか。理由がなければ、やり続けることができないとでも思っているのか。」こんな一節を読んで、自分がピアノを続ける意味が分かった。この本からは、私の身体にこもるピアノへの熱をふつと教えてくれた。読んだ後、自分の本当に大切に夢中になれるモノが分かる、そんな一冊である。



新潮文庫刊



ずっと続けてきたピアノ。でも心の中でのやるせない気持ちは収まらない。そんな中、目にした「理由がなければ、やり続けることができないとでも思っているのか。」の一節。本との出会いは、偶然であり、運命でもある。だから本との出会いで変わっていく生き方もある。それを味わうことができた本を薦めていくことは、自分の生き方をしっかりと自覚した証である。

中学生の部

奨励賞一覧

- 『西由比ヶ浜駅の神様』（村瀬 健／著） 青森市立南中学校 3年 水木 苺
- 『花や咲く咲く』（あさの あつこ／著） 青森市立東中学校 3年 小林 幸愛
- 『かがみの孤城』（辻村 深月／著） 外ヶ浜町立三厩中学校 3年 吉田 由奈
- 『真夜中のディズニーで考えた働く幸せ』（鎌田 洋／著） 平川市立平賀西中学校 3年 鈴木悠希子
- 『檸檬』（梶井 基次郎／著） 十和田市立切田中学校 1年 岩本 郁香
- 『デカ物語 日本一長生きしたカバが見つめた半世紀』（あんず ゆき／著） 三沢市立第一中学校 1年 江口 花鈴
- 『西の魔女が死んだ』（梨木 香歩／著） 八戸市立江陽中学校 2年 工藤 結葉
- 『52ヘルツのクジラたち』（町田 そのこ／著） 八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 柳谷菜々子
- 『461個の弁当は、親父と息子の男の約束。』（渡辺 俊美／著） 階上町立道仏中学校 2年 濱谷 歩香

審査員賞一覧

- 『星の王子さま』（アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ／著 河野 万里子／訳） 青森市立東中学校 3年 和田 るい
- 『武蔵野・牛肉と馬鈴薯』（国木田 独歩／著） 三沢市立第一中学校 3年 四木 碧
- 『この恋は世界でいちばん美しい雨』（宇山 佳佑／著） むつ市立田名部中学校 3年 坂本 愛菜

『星やどりの声』（朝井 リョウ／著）

青森県立青森工業高等学校 1年 猪股 玲奈

星やどりの声という本は、父のいない母子家庭の物語です。六人のきょうだい達の今は亡き父と、父のいない家庭をどうにか支えようとする母への優しい思いがゆっくりと伝わってきます。私も母子家庭で母に沢山無理をさせてしまっていると思います。この小説に出てくる母のように、私の母の朝は早く、夜は非常に遅いです。相当なストレスが溜まっているにも関わらず、母はいつも笑顔で優しいのです。私も母を支えられるようになりたいという強い気持ちをもって、資格取得のため日々勉学に励んでいます。私の心が折れそうになったときは、この本に支えてもらっています。今、支えたい人がいるのならば必ず読んでほしいです。共に頑張りましょう。



KADOKAWA/角川文庫

審査評

新型コロナウイルスで厳しい生活を強いられているからこそ、家族の大切さを感じる毎日です。猪股さんがこの作品を通して家族の「絆」を確かめたように、読者は6人の兄弟の誰かに自分の姿を重ね合わせ、家族のこと、明日の生き方を考えます。まさに「今」の私たちに心の平安を届ける作品を薦めていただいたと評価しました。



優秀賞

高校生の部

『夏の庭 The Friends』(湯本 香樹実/著)

青森県立青森東高等学校 2年 山田 愛菜

何げない日常の中、突然訪れる死。私は最近、幼い頃からお世話になっている叔母の死に直面した。悲しくて泣いてばかりの時にこの本を読んだ。この本は人が死ぬ瞬間を見たいと思った少年三人が、近所の老人を観察していくにつれて深い交流へとなっていく話だ。私は少年達が老人の言葉を胸に成長していく姿に励まされた。死とは何なのか。私はこの本を読んで、姿は見えないが叔母がかけてくれた言葉や愛は、私の中で生き続けるのだと感じた。叔母が私の一部になると考えると心が救われたのと同時に叔母の言葉を胸に精一杯生きようという勇気が湧いてきた。ぜひこの本を読んで彼らの温かい友情に触れ、生きる勇気をもってほしい。



新潮文庫刊

審査員

山田さんはこの作品に触れて、自分の中のぼんやりとしたものを言葉にできました。「死生観」が深まることは人間的な成長です。そして読書は「死生観」を獲得するための安全な方法手段です。2022年4月から18歳になる高校生は成年になりますが、「大人」になるほろ苦いエキスを味わうことができる一冊です。

『レインツリーの国』(有川 浩/著)

青森県立青森聾学校 高等部3年 三上 真輝

この本は、聴覚障がい者と健聴者の共生をテーマに描かれた物語だ。私も聴覚障がい者だ。私は、後ろから自転車が来て、気づかずにつぶつかりそうになった時があった。車の音が大きくて、自転車の音は聞こえない。私の横を通り過ぎた自転車に乗っていた人は私に対して、冷たい視線を浴びせていった。だから、今でも一人で外に行く時は、必要以上に周りをよく確認し、行動している。この本を読んで、健聴者と私達、障がい者が共生するためには、まだまだ高い壁があるのだと感じた。共生するために、まずは自分の障がいをみんなに伝えていこうと思った。自分から発信することで相手と手を取り合って、思いやりあふれる世界を作ることができるだろう。



新潮社刊
(版元品切れ、文庫版刊行中)

審査員

人間社会と科学の進展により、「共生」という言葉が不要になることを期待します。恋愛小説ですから、甘酸っぱさはありますが、現実には三上君が感じた切実な問題も織り込まれています。それを少しでも感じることができれば、未来の創造者であるみなさんが、世界の環境をユニバーサルデザインする偉大な担い手となるはずです。



『海の見える理髪店』(荻原 浩/著)

青森県立五所川原工科高等学校 1年 平沢 さなえ

私の家は父子家庭だ。年が半世紀も離れている父とは意見が合わず言い争いをしてしまうことがある。そんなとき私はこの家に生まれてきてしまったことを後悔してしまう。

この本では高齢の店主が自分の人生を語ってくれる。店主は家族のことを思い、妻と息子と離ればなれになった。私は店主と父を少し重ねてしまった。同じくらい歳の離れている親子。父も普段こんなことを想ってくれているのだろうかとしんみりした。私はこの本を読んで自分の仕事に誇りを持てるようになりたいと思った。そして大好きな仕事で大好きな父に恩返しをしたい。

私はこの家に生まれて幸せだ。家族について悩んでいる人は、一度読んでみて欲しい。



集英社文庫



人間の成長とともに個々人の生活世界が広がり、家族一人ひとりを見つめる視点にも社会的な要素が加わります。しかし、もともと家族のつながりは社会的な契約とは別のものです。一冊の本との出会いが「大切なあなた」に気づく契機となります。平沢さんのお勧めの言葉を必要とする若者はたくさんいると確信しています。

『か「」く「」し「」ご「」と「』』(住野 よる/著)

青森県立八戸商業高等学校 1年 高畑 友希

自分の心の中に秘めている隠しごと。誰にでもあるだろう。この本の登場人物たちは、それぞれ、かくしごとを持っている。それは、彼女たちが生まれつき持っている「相手の感情を記号やアークで見ることができ」能力のことだ。相手の感情と日々、向き合っていくかねばならないことは彼女たちには難しいことだ。高校生である彼女たちの息苦しさは、そんな能力のない私にだってよく理解できる。私自身、学校という集団生活の中で価値観の違いから友人とぶつかり合ってしまった経験を何度かしている。実は同じだ。相手とのすれ違いを経験しながら自分自身が自分の心と向き合い成長していく。人間関係を築くための日常を描いた、まさに青春の一冊だ。



新潮社刊



SNSは人と人とのコミュニケーションを容易にした反面、常に関係構築の難しさや不安を生じさせます。読者である高校生諸君はまさしく物語の当事者であり、各人の青春を彩る友人たちは「大切なあなた」のはずです。高畑さんがこの作品を薦める確かな理由が示されていると高く評価しました。



『今こそ栄光への架け橋を

それでもオリンピックは素晴らしい!』(刈屋 富士雄/著)

向陵高等学校 3年 栗橋 美妃

誰でも夢や目標があるだろう。でも、それを達成するまでには、沢山の失敗や挫折、壁にぶつかる。それを乗り越えるのは自分自身だが、そう簡単にいくものではない。私はバトン部に所属しているが、高校三年生で一つ一つの大会が最後になってくる分、そこにかける想いも熱く、高い目標も掲げていた。しかし、満足のいく演技と結果を出せず、ネガティブ思考になった時期があった。そんな時この本と出会った。スポーツで高みを目指す者の気持ちや失敗から学ぶこと等、為になる話が沢山あり、前向きになることが出来た。夢や目標を達成するまでは長い道のりだが、辛いことや壁等も全て通過点だ。皆にもこの本を読んで自分の可能性を広げてほしい。



海竜社

▼
審査評

苦難のもと開催にこぎつけた2020東京オリンピックパラリンピックは国民の記憶に新しいところです。それよりはるか以前から筆者が目撃したアスリートたちの栄光と影、感動の裏に存在する真実を私たちはこの本から知ることになります。栗橋さんの高校3年間でリアリティある共感を導きました。説得力ある推薦文を高く評価します。





高校生の部

奨励賞一覧

- 『私は私のままで生きることにした』 (キム・スヒョン／著 吉川 南／訳)
青森県立青森西高等学校 2年 中川あおい
- 『努力は裏切らない』 (宇津木 妙子／著)
青森県立青森聾学校 高等部 2年 古川瑛梨奈
- 『桜風堂ものがたり』 (村山 早紀／著)
東奥学園高等学校 1年 柴田里美香
- 『盤上に君はもういない』 (綾崎 隼／著)
青森県立鱒ヶ沢高等学校 3年 山下麗緒菜
- 『死にたいけどトッポッキは食べたい』 (ペク・セヒ／著 山口 ミル／訳)
青森県立弘前実業高等学校 2年 三上 愛奈
- 『あひる』 (今村 夏子／著)
青森県立黒石高等学校 2年 川原田るな
- 『あした元気になるために 人生の時間銀行』 (吉田 浩／著 小倉 淳／監修)
青森県立七戸高等学校 2年 佐々木紅葉
- 『天国までの49日間～ラストサマー～』 (櫻井 千姫／著)
青森県立八戸工業高等学校 2年 奥山 咲希
- 『桜のような僕の恋人』 (宇山 佳佑／著)
千葉学園高等学校 3年 鶴飼 穂香

審査員賞一覧

- 『この冬、いなくなる君へ』 (いぬじゅん／著)
松風塾高等学校 3年 長澤 真鈴
- 『時給三〇〇円の死神』 (藤まる／著)
青森県立弘前南高等学校 1年 石上 千紘
- 『きみの友だち』 (重松 清／著)
青森県立三戸高等学校 3年 寺澤 美優





中学生・高校生の皆さんへ

青森県教育委員会では、県内の中学生・高校生の皆さんを対象として、仲間や友だちなどへのお薦めの本の紹介文（200～300字程度）を募集しました。

今年度もたくさんの応募（[中学生の部] 1,036点、[高校生の部] 3,487点）をいただき、その全ての作品から、皆さんの「お薦めの一冊」への思いが感じられました。

この作品集では、応募作品の中から、厳正な審査により最優秀賞・優秀賞に選ばれた計12作品を紹介しています。また、奨励賞・審査員賞を含む全ての優秀作品については、県教育委員会のホームページで読むことができます。

これらの紹介文を読んで、実際に図書館や書店で本を手にとって、読んでみてください。そして、ぜひ、皆さんそれぞれのお薦めの本を仲間や友だちどうしで紹介し合ってみてください。

皆さんにとって、心に残る本との出会いが、これからの人生をより深く生きるための力となることを願っています。

青森県 青春の一冊 検索

【審査員】

青森県立八戸中央高等学校

青森市立三内中学校

株式会社成田本店

青森県読書団体連絡協議会

八戸学院大学短期大学部幼児保育学科

青森県教育庁生涯学習課

校長 吉田 繁徳

校長 渡邊 諭

取締役会長 成田 耕造

理事 西村恵美子

客員教授 茂木 典子

課長 渡部 泰雄

発行

青森県教育庁生涯学習課企画振興グループ

〒030-8540 青森市長島1-1-1

TEL 017-734-9888 FAX 017-734-8272

発行／令和4年2月